

令和6年度

函館白百合学園高等学校

推薦入学試験問題

国語

令和6年1月18日(木)実施

注意事項

1. 試験時間は50分です。
2. 問題は□から□まであり、12ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。

次の問いに答えなさい。

問一 次の〱——線のカタカナを漢字に直しなさい。

① 一瞬のスキをツいて相手を油断させる。 ② 来年の春には新しい仕事にツく予定です。

③ 互いのケントウを称える。 ④ もう一度ケントウしてみよう。

⑤ 手がスべって皿を落としてしまった。 ⑥ 最新刊がニユウカされました。

⑦ 首相が世界各国をレキホウしている。 ⑧ 連絡が来るまで自宅でタイキすることになった。

問二 次の〱——線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

① 与えられた任務を遂行する。 ② 切れ味の鈍った包丁を研ぐ。

③ せつかくの料理を焦がしてしまった。 ④ 数種類の塗料を混ぜて望みの色を作る。

問三 次の〱に下の漢字を入れて、四字熟語をそれぞれ完成させなさい。

① 起死〱〱 ② 〱差〱別

万 改 一 生 千 回 性

問四 次の〱に後の語を入れて、——線の慣用句を完成させなさい。

① 親の〱を立てるためにしぶしぶ出席した。 ② そんなに興奮しないで少し〱を冷やしなさい。

問五 次の意味として最も適切な故事成語を、ア～オから選びなさい。

① 見かけは立派だが内容が伴っていない。

② 目先の違いにとらわれて、結果が同じことに気づかないこと。

- ア 五里霧中 イ 羊頭狗肉 ウ 竜頭蛇尾 エ 朝三暮四 オ 四面楚歌

問六 次の例文の――線①・②と同じ性質のものを、ア～エから選びなさい。

今日は風がさわやか①に吹いて②いる。

① 「に」

ア 劣等感にさいなまれる。

イ 得意げに優越感をふりまわす。

ウ 庭に百合の花を植える。

エ ただちに始めなさい。

② 「いる」

ア そこにいるのは誰ですか。

イ 今日は犬を連れているんですね。

ウ ロンドンにいる姉からメールがきた。

エ 弓矢をいるのが得意な者。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

楊梅大納言やまものだいなごんあきまさきやう頭雅卿は、若くより、いみじく言失ごんしつをぞし給ひける。

言い間違いをしなされた。

ある皇族の元に参上して

すだれの外で

雑談をなさっていた時に、

さっと降ったので、

お供である従者を

1 神無月のころ、ある宮腹みやすに参りて、御簾みすの外にて女房達と物語せられけるに、時雨しぐれのさとしければ、供なる*雑色を呼びて、

「車軸が降る」ということでしょうか。

と（これを聞いた女房たちは）すだれの内側で

「車の降るに、」 2 「」とのたまひけるを、「*車軸とかやにや、恐しや」とて、御簾の内、笑ひあはれけり。

「言い間違いが

いつもあるとお聞きしましたが、

本当なのでしょうか。（仏様へ）お祈りなさるおつもりか

さて、ある女房の、「御言ひ違へ、常にありと聞こゆれば、まことにや、御祈りの有るぞや」と言はれければ、

お祈りしようと思いました。」

ちょうどその時、

そばを

「3 そのために、*三尺の」 4 「を造り、供養くようせむと思ひはべる」と言はれたりける。折節、ねずみの御簾の際を走り

観音仏と思ひ間違つて

おっしゃったそうだ。

通りけるを見て、観音に思ひまがへてのたまひけるなり。

（中へ）しまいなさい。

「時雨さし入れよ」には勝まひりて、をかしかりけり。

『十訓抄』

*時雨……秋の末から冬の初めにかけて、ぱらぱらと通り雨のように降る雨。

*雑色……雑務などを行う従者。

*車軸とかやにや……。車軸は車輪の軸。「車軸を流す」豪雨を表す慣用句「を踏まえている」。

*三尺……約九〇センチメートル。

問一 ――線1 「神無月」は旧暦で何月にあたるか書きなさい。

問二 「 2 」に当てはまるものを、本文中より七字で書き抜きなさい。

問三 ――線3 「そのために」とあるが、何の「ため」か。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 生き物を大事にしているという志を仏様に示すため。

イ いつも言い間違いしてしまう自分のくせを直すため。

ウ ある女房への恋心が成就するように仏様にお祈りするため。

エ 女房たちの笑いものになった名誉挽回のため。

問四 「 4 」に当てはまる語を、本文中から書き抜きなさい。

問五 『十訓抄』は鎌倉時代に成立した説話集だが、同じジャンルではない作品を、ア～エから選びなさい。

ア 古今著聞集

イ 源氏物語

ウ 今昔物語集

エ 宇治拾遺物語

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ときどき自分の名前が思い出せなくなった。多くは、思いがけず誰かから名前を尋ねられた場合だった。たとえばブティックでワンピースを買って、袖の寸法をなおすことになり、店員に「失礼ですが、お客様の名前は何ですか？」と質問されたようなときに。あるいは仕事の電話でしるべきやりとりがあり、最後になって「ところで名前をもう一度いただけますか？」と言われたようなときに、そこでとつぜん記憶が消え失せてしまう。自分が誰なのかわからなくなってしまふ。だから名前を思い出すために、財布をひっぱりだして運転免許証を見なくてはならず、当然のことながら**1**相手に不思議な顔をされたり、あるいは——ぽっかり奇妙な間が空くことで——電話の向こうで不審に思われたりするようになる。

自分の方から意識して名前を名乗る場合には、そういう「名前忘れ」は起こらない。それなりの心の準備ができていれば、問題なく記憶を管理することができる。ところが慌ただしくしているときや、まったく無警戒でいるときに、相手から出し抜けに名前を尋ねられると、まるでブレーカーがすとんと下りたみたいに、頭の中が空白になってしまう。名前がどうやっても出てこない。手がかりを求めれば求めるほど、彼女は**a** リンカのない空白に呑み込まれていく。

思い出せなくなるのは、**自分の名前に限られていた**。まわりの人の名前を忘れることはまずない。自分の住所も、電話番号も、誕生日も、パスポート番号だって、忘れない。親しい友人の電話番号や、大事な仕事関係の電話番号は、ほとんど**2** **そらで言える**。記憶力は昔から悪くないほうだった。思い出せなくなるのは、ただ自分の名前だけなのだ。名前忘れが始まったのは一年ばかり前からだが、それ以前にはそんな経験をしたことは一度もなかった。

彼女の名前は「安藤みずき」だった。結婚前の名前は「大沢みずき」。どちらもとくに独創的な名前とも言えないし、ドラマティックな名前とも言えない。しかし、だからといって、慌ただしい日常に**b** **マギ**れて記憶からついこぼれおちてしまうのもまあ仕方あるまい、ということにはもちろんならない。なにしろそれは、ほかならぬ**3** **】**なのだから。

彼女が「安藤みずき」になったのは、三年前の春のことだ。彼女は「安藤隆史」という名前の男性と結婚して、その結果、安藤みずきと名乗るようになった。最初のうちは安藤みずきという名前にうまく馴染めなかった。字面も音の響きも、いささか落ち着きが悪いように感じられた。しかし何度も口にし、繰り返し署名をしているうちに、安藤みずきもそれほど悪くないなど、だんだん思えるようになってきた。たとえば「水木みずき」とか「三木みずき」とか、そういう語呂あわせのような名前を名乗らなくてはならない状況だつて起こり得たのだから（彼女は短いあいだではあるけれど、実際に三木という名字の男性と交際していたことがある）、**4** **それに比べれば**「安藤みずき」はまだ上出来の部類ではないか、と思った。そして彼女は徐々にではあるけれど、その新しい名前を自分自身のものとして受け入れていった。

しかし一年前から、その名前は突然逃げ出し始めた。最初は一ヶ月に一度くらいだったが、日を追うにつれ頻度が増してきた。今では少な

くとも週に一度くらいはそれが起こる。「安藤みずき」という名前がいったん逃げ出してしまおうと、彼女は誰でもない「名前のない一人の女」として世の中に取り残されることになった。財布があるうちはいい。それを出して免許証を見れば、自分の名前は分かる。しかしもし財布をなくしてしまつたら、もう自分がどこの誰だか見当もつかないということになってしまうかもしれない。もちろん名前を一時的に失つても、彼女は彼女としてそこにあるわけだし、自宅の住所も電話番号も覚えていいるから、存在がまったくのゼロになるというわけではない。映画に出てくるような全面的な記憶喪失とは話が違ふ。しかし自分の名前が思い出せないというのは、やはりおそろしく不便であり、不安なことだった。名前を失つた人生は、まるで**5** **覚醒の手がかりを失つた夢みたい**に感じられる。

彼女は宝飾店に行つて、細くてシンプルな銀製のブレスレットを買ひ求め、そこに名前を彫ほつてもらつた。「安藤（大沢）みずき」という自分の名前を。住所も、電話番号もなし。ただ名前だけ。これじゃまるで犬か猫みたいだ、と彼女は自嘲じちやう的に思つた。彼女は家を出るときには、必ずそのブレスレットをつけた。自分の名前が思い出せなくなつたら、ブレスレットにちらりと目をやればいいのだ。そうすれば名前を思い出すためにいちいち財布を引っぱり出さなくてすむ。相手に妙な顔をされることもない。

6 **自分が日常的に自分の名前を思い出せなくなつて**いることを、**彼女は夫には打ち明けなかつた**。そんなことを話したら、夫はたぶん「それは君が、結婚生活に不満や違和感を持つていいるからじゃないかな」というようなことを言い出すに決まつていいる。とにかくそういう理屈っぽいことを持ち出すのが好きな人なのだ。**c** **悪気はない**のだが、何ごとによらずすぐに論理化してしまふ。彼女はそういうものごとこの決めつけ方が、どちらかといえれば苦手だつた。おまけに弁が立つものだから、簡単には言い負かすことができない。だからこのことについては黙つていようと心に決めた。

(村上春樹 『品川猿』)

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一 ————— 線**1**とあるが、そういう事態にならないようにするため「彼女」はどういうことをしたか、四十字程度で述べなさい。

問二 ————— 線**2**の意味として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 大きな声で言える
- イ 何も見ずに言える
- ウ 空を見ると言える
- エ 掛け声とともに言える

問三 「 3 」に入る五字の語句を、本文中から書き抜きなさい。

問四 線4が指示するひと続きの部分（四十五字以上、五十字以内）の最初と最後の五字を書き抜きなさい。（句読点、カギ括弧等の記号を含む）

問五 線5の表現についての説明として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 名前を思い出せないことの不安の比喻で、擬人法である。
- イ 名前を思い出せないことの不便さの比喻で、隠喩表現である。
- ウ 名前を思い出せないことの不安の比喻で、直喩表現である。
- エ 名前を思い出せないことの不安の比喻で、隠喩表現である。

問六 線6の理由を説明した、次の文の空欄に入る適切な言葉を、本文中から書き抜きなさい。

夫に言えば、夫は「結婚生活への① 六字」のせいなどと② 二字」で決めつける上、③ 四字」のでなかなか反論できないと思ったから。

問七 線「自分の名前に限られていた」の文節の数を答えなさい。

問八 線a～cの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に改めなさい。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「アイデンティティ」とは何なのか。その定義は分野によって違う。しいて言えば、「私という人間」とでも表すことができる。「私がどんな人なのかというイメージ」のようなものだ。(中略)

これまで、1ことばとアイデンティティの関係は、あらかじめ話し手には自分のアイデンティティがあつて、そのアイデンティティが言葉づかいにも自然にあらわれると理解されていた。謙虚な人ははいねいな言葉づかいをし、傲慢な人はおうへいな言葉づかいをする。ある人がていねいな言葉づかいをするのは、その人が謙虚な人だからだと考えられた。つまり、「私たちは、すでにあるアイデンティティにもとづいて人との関わり方を決めていく」と考えられていたのだ。

このように、アイデンティティをその人にあらかじめ備わっている属性のようにとらえて、人はそれぞれの属性にもとづいてコミュニケーションをするという考え方を「本質主義」と呼ぶ。

【A】アイデンティティのうちで「*ジェンダー」(女らしさや男らしさ)に関わる側面を本質主義にもとづいて表現すると、人は〈女らしさ〉や〈男らしさ〉を「持っていて」、その〈女らしさ〉や〈男らしさ〉にもとづいて、ことばを使うと理解される。ある人が女らしい言葉づかいをするのは、その人が女らしいからで、男らしい言葉づかいをするのは、その人が男らしいからだと言われた。

しかし、このような考え方では、2説明のつかないことがたくさん出てきてしまった。もともと大きな問題は、私たちはだれでも、それぞれの状況に応じてさまざまに異なる言葉づかいをしていることがはっきりしてきた点である。同じ人でも、家庭での言葉づかいと学校での言葉づかいは異なる。同じ学校で話していても、話す相手や、場所、目的によって異なる。さらに、同じ人でも子どもの時と大人になってからは言葉づかいは変わる。同じ〈男らしさ〉を持つている人でも、その言葉づかいはそれぞれに異なる。【B】、いつでも、だれとでも、同じ言葉づかいで話している方が不自然に感じられるのではないだろうか。もし、私たちが、すでにあるアイデンティティにもとづいて人との関わり方を決めていくのだとしたら、このように言葉づかいは多様に変化することを説明できない。

そこで提案されたのが、3アイデンティティをコミュニケーションの原因ではなくて結果ととらえる考え方である。私たちは、あらかじめ備わっている〈日本人・男・中学生〉という属性にもとづいて言葉を選んでいくのではなく、人とのコミュニケーションによって自分のアイデンティティをつくり上げている。「私は日本人だ」「男として恥ずかしい」「もう中学生になった」と言う行為が、その人をその時〈日本人〉〈男〉〈中学生〉として表現すると考えるのである。

アイデンティティを、その人が「持っている」属性とみなすのではなく、人と関わり合うことのでつくりあげる、つまり、4「アイデンティティする」行為の結果だとみなすのである。このように、アイデンティティを、他の人とことばを使って関わり合うことのでつくり続けるもの

だとみなす考え方を「構築主義」と呼ぶ。

構築主義によれば、人はあらかじめ「持っている」アイデンティティを表現しているのではなく、他の人と関わり合う中で、その時々に応じて、さまざまなアイデンティティを持った人間として立ち現れるのだ。本書では、構築主義の考え方にもとづいて、ことばとアイデンティティの関係を見ていく。

「構築主義」という考え方の特徴は、何よりも、私たちのアイデンティティは、他の人との関わり合いの中で表現されるものだと考ええる点だ。関わり合う相手は、人間でなくてもよい。⁵ ペットに話しかけるとときには、自分でもびっくりするぐらい優しい自分になっている時がある。

【C】ここまで読んできて、いくつかの疑問を持った読者がいると思う。

まず考えられる疑問は、他の人と関わり合うことで、その時々に応じてアイデンティティを表現するとしたら、人と関わり合う前の自分は空っぽなのかという問いだ。この、「自分は空っぽ」というのは、たいていの人の感覚とずれている。むしろ私たちは、自分の中には何か⁶ 自分らしさがあるという感覚を持っているのではないか。

これに対して、構築主義を提案した人たちは、次のように説明する。私たちは、繰り返し^a シュウカンのに特定のアイデンティティを表現し続けることで、そのアイデンティティが自分の「核」であるかのような⁷ 幻想を持つ。

(中略)

哲学者のジュディス・バトラーは、ジェンダーに関わるアイデンティティについて、「ジェンダーとは、身体をくりかえし様式化していくことであり、きわめて^b ゲンミツな規制的枠組みのなかでくりかえされる一連の行為であって、その行為は、長い年月のあいだに^c 凝固して、実体とか自然な存在という見せかけを生み出していく」と指摘している。

【D】「女らしさや男らしさに関わるアイデンティティの側面も、身近な人との関わり合いの中で、長い間繰り返し表現していくことで、「自分の女らしさ、あるいは、男らしさはこんな感じ」という感覚が確立していくのだというのだ。

* 筆者はこの文章で、「性別」ではなく「ジェンダー」を用いている。「性別」とは生物学的な性の違いを指し、「ジェンダー」は、社会文化的な女らしさや男らしさを指している。

(中村桃子 『自分らしさと日本語』)

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一 ——— 線**1**のような考え方を、筆者は端的に何と呼んでいるか、本文中から五字以内で書き抜きなさい。

問二 ——— 線**2**とあるが、「説明のつかないこと」とはどういうことか、四十字以内でまとめなさい。

問三 ——— 線**3**のような考え方を、筆者は端的に何と呼んでいるか、本文中から五字以内で書き抜きなさい。

問四 ——— 線**4**とあるが、それは例えげどのような行為か。三十五字のひと続きの部分の最初と最後の五字を本文中から書き抜きなさい。
(句読点やカギ括弧などの記号を含む)

問五 ——— 線**5**について、生徒AとDが話している。この中で、本文の内容に合っている発言をしている一人を、AとDから選びなさい。

A この人は、元々動物好きで、性格が優しいから、犬なんか話しかける時は、いつもそういう話し方になるんだと思う。

B そうだね。ところで、みんなは犬派？それとも猫派？僕は断然犬派なんだよね。生まれつきっていうか、なぜか猫は苦手なんだ。

C そうなのかな。B君のところは、確かずっと犬を飼ってるよね？ だから、可愛がっているうちに、犬派になったんじゃないのかな。

D いや、最初から猫が苦手な人っていると思うよ。ウチは猫も犬もいるけど、弟は犬派、僕は猫派。これ、昔からそうだったもの。

問六 ——— 線**6**「自分らしさ」を筆者はどの言い換えているか、これより後の文章中から六字（句読点やカギ括弧などの記号を含む）で書き抜きなさい。

問七 ——— 線**7**「幻想」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) ——— 線**7**「幻想」を、ジュディス・バトラーはどう呼んでいるか、二十字以内のひと続きの部分を書き抜きなさい。

(2) ——— 線**7**「幻想」について、筆者はそれがどのようにして生み出されると説明しているか、本文中の表現を使って四十字以内で答えなさい。

問八 「A」～「D」に入る最も適当なものを、ア～エから一つずつ選びなさい。

- ア しかし イ つまり ウ たとえば エ むしろ

問九 線a～cの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に改めなさい。

推薦入試

令和六年度 函館白百合学園高等学校入学試験

国語

解答用紙

受験番号

氏名

得点

一 問一 ① いて ② く ③ ④

⑤ って ⑥ ⑦ ⑧

問二 ① ② ぐ ③ がして

④ 問三 ① 起死 ② 差 別

問四 ① ② 問五 ① ② 問六 ① ②

二 問一 月 問二 問三 問四 問五

三 問一

問二 問三 問四 ④

問五 問六 ① ② ③ 問七

問八 a b れて c

四 問一

問二

問三 問四 ④ 問五

問六

問七 (1)

(2)

問八 A B C D

問九 a b c

小計

小計

小計

小計

推薦入試

令和六年度 函館白百合学園高等学校入学試験

国語

解答用紙

受験番号

氏名

得点

一 問一 ① 突 いて ② 就 く ③ 健闘 ④ 検討

⑤ 滑 って ⑥ 入荷 ⑦ 歴訪 ⑧ 待機

問二 ① すいこう ② と ぐ ③ こ がして

④ とりよう 問三 ① 起死 回生 ② 千差万別

問四 ① 顔 ② 頭 問五 ① イ ② エ 問六 ① イ ② イ

各①点 問三は完全解答

二 問一 十 月 ② 問二 時雨さし入れよ ③ 問三 イ ③ 問四 ねずみ ② 問五 イ ①

三 問一 宝飾店に行き、シンプルで細い銀製のブレスレットを買
い、自分の名前を彫ってもらった。
「ブレスレットに自分の名前を彫ってもらう」
の内容を必ず必要とする。

問二 イ ③ 問三 自分の名前 ③ 問四 「水木みずくらない状況」 ③

問五 ウ ③ 問六 ① 不満や違和感 ② 理屈 ③ 弁が立つ 問七 4 ③

問八 a 輪郭 b 紛 れて c わるぎ 各1点

四 問一 本質主義 ②

問二 私たちが、相手や場所、目的という状況によって言葉づ
かいを多様に変化させること。 ⑥
「状況によって言葉づかいを多様に変化させる」の内容を必ず
要とする。「相手」「目的」「場所」がなければマイナス1点。必
要とする。

問三 構築主義 ② 問四 「私は日本」と言う行為 ③ 問五 C ③

問六 自分の「核」 ③

問七 (1) 実体とか自然な存在という見せかけ ③

(2) 身近な人との関わり合いの中で、長い間練り
返し表現していくことで生み出される。 ⑥

問八 A ウ B エ C ア D イ 各2点
「長い間練り返し表現していく」という内容を必ず必要とする。
「表現し続ける」で「アイエウ」を表現し続けることにより生み出
される。一定のアイエウを表現し続けることにより生み出
される。

問九 a 習慣 b 厳密 c ぎょうこ 各1点

小計 20

小計 11

小計 30

小計 39